

# ミモザレター



女性医師支援センターでは様々な働き方で活躍する職員の方、またそれを支援する方からのメッセージを発信してまいります。第1回となる今回は、奥田泰久病院長と、循環器内科に勤務する東彩子先生から、メッセージをいただきました。

~~~~~



奥田泰久 病院長

“女性医師支援”と言われて久しいですが、当センターのみならず、多くの医療機関がまだまだ十分な支援に至っていないのが現状ではないでしょうか？医師として女性が男性と同様のキャリアを重ねることの障害の一つに、サポート体制の不備（例えば、託児所・保育所・学童不足や配偶者や家族から十分な協力が得られ難い状況等）の中での妊娠、出産そして育児があると思います。以前は社会全体がそのことに無関心を装っていましたが、急激な少子高齢化と特に地方の医師不足が無視できない大きな社会問題となってから、その人口問題と医師不足の問題、ある意味相反する二つの問題の解決策として“女性医師支援”が重要視されるようになったと思います。ただ国として“女性医師支援”を声高らかに宣言しているのみで、雇用機関に対して具体的に支援を打ち出すことなく、その推進の圧力のみを与えている現状も否定できません。

例えば産休育休中の女性医師やその代わりとなる医師に対する財政や人的支援は必須ですが明確なものがないことは非常に残念です。もちろん、全ての女性医師が男性と同じようにキャリアを重ねることを望んでいるわけではなく、結婚、妊娠、出産、育児を優先的に目指すあるいは目指さない選択もあるのも事実であり、それぞれ尊重すべき決断であります。また一般論で言いますと、子供の年齢によりますが夫婦で年収が少ない方が子育てを担当する傾向にあり、該当する女性医師も少なくはないと思います。当センターとして、いかなる価値観をもった女性医師であっても、全力でサポートすることは院内の最重要使命と考え、システム作り、予算化も大切ですが、院内の全ての教職員の意識改革は必須と考えますので、教職員の方々にはぜひこのことのご理解を承りたいと思います。

最後に、“女性医師支援”は国策であり、そのことを受ける権利は、該当する女性医師であれば、どなたでもぜひ躊躇なく受けて頂きたいと考えます。ただこれからはあくまでも私的お願いですが、その主たる支援を最前線で行っている男性医師、そして女性医師や医療従事者に対して、可能な限り目に見える感謝（態度や言葉）を伝えて頂ければ、より当センターでの支援が推進されると私は信じておりますので、何卒、よろしくお願ひいたします。

## 女性医師支援センター 短時間正職員制度を利用して

循環器内科学内助教 東 彩子

私が産後この支援制度を利用し職場復帰を決めたのは、COVID-19が日本に蔓延し始め、ドラッグストアからはアルコールやマスクが消えた頃でした。自分が仕事をしなければ、1歳にも満たない子どもを保育園に預ける必要もなく、きっとそのほうが家族にとって安心なことは、よく分かっていました。当時は、仕事と子どもを天秤にかけているように感じ、復職するかとても悩みました。しかし、幸い私の周りには、子どもを育てながら仕事を続け、この制度の中でできる限りの毎日を送っている先輩や同期が何人もいて、直属の上司への相談も気持ちが決まるまでできたこともあり、最終的には復帰に前向きになることができました。

現在私は、週3日当院で勤務をしています。この制度は週20時間の勤務が定められていますが、勤務形態・内容は所属科と相談し、アレンジすることが可能です。私は、構造的心疾患に対する経カテーテル治療誘導に必要な経食道心エコー図検査に終始携わりたかったので、治療を行う月曜日は終日勤務し、残りの1日半は

弁膜症を中心とした外来診療と、超音波検査室での心エコー図検査を行っています。子どもの発熱や保育園の休園などの急なお休みの場合は、別日に出勤し補うようにしています。



産後の復帰から約2年が過ぎました。急なお休みで周囲にしわ寄せをかけてしまい、申し訳ない気持ち、育児・家事・仕事も頑張りたいけれど、なかなか思うようにはいかないなど様々な葛藤がありました。しかし、この制度を利用することで、正職員として大学病院で勤務を継続しながら、専門的知識・手技を学び、昨年循環器専門医を取得することができました。医局の先生、スタッフ、家族の深い理解と支えがあったからこそであると感謝しています。

今後ライフスタイルの変化で勤務を迷うようなことがあれば、周囲や女性医師支援センターに相談してほしいと思います。まず、多くのアドバイスを聞いてからこの先の自分の未来を決めていただきたいと思います。

女性医師支援センターだよりの名称が『ミモザレター』に決定いたしました！

※ミモザ・・・3月8日の国際女性デーにちなむ花とされています。  
花言葉のひとつに「思いやり」・・・

<相談窓口>

事務部職員課：内線2121・mail：koshoku@dokkyomed.ac.jp